

団体会員紹介

Introduction of member of group

ksks Archeの団体会員さんのご紹介をするコーナーです。
(登場する順番は不同です。)

小野おやこ劇場

今回は、団体会員として実際にワークスペースを利用されている小野おやこ劇場の代表である藤原さんにお話をお伺いしました。今までは、藤原さんの自宅でもある私設図書館・草加野(そうかの)文庫を活動の拠点として利用しておられました。藤原さんは、「異年齢であそべたらなあ、人形劇も好きだったし」という想いから小野おやこ劇場を立ち上げるときから関わっておられます。

どんな活動をされている団体ですか?

おやこ劇場は、子どもたちの文化環境をよくしよう!という目的のもと、親子での舞台鑑賞を中心に、多彩な活動を展開しています。正式に発足したのが1981年11月で今年25周年を迎えます。準備会から数えると28年続いています。北播磨では、小野、三木、加西、西脇があり、それぞれで活動しています。小野では年2回、人形劇や舞台劇などの主催イベントをはじめ、親だけのツールペイント教室、寄せ植え教室や、親子での野外活動なども積極的に行っています。

親子で生の優れた舞台を鑑賞し、心ゆさぶられる文化との出会いから得られる感動の体験や、年齢を越えた多くの人たちと交流を通して、「ともに楽しみ、学び、感性豊かに成長して欲しい。」という想いで活動してきました。現在は、地域元気アップ事業の対象団体でもあり、NPO法人兵庫県子ども文化振興協会の団体会員でもあります。

今は、子どもにとって大変な時代だと思います。子ども自身が心豊かに成長する場がなくなっているように思います。子どもの個性は違っていて当たり前、「違っていていいのよ」という場所も必要です。おやこ劇場はそういう場所でありたいのです。芸術に触れて感動する心が、心の扉を開きます。感動する心が感動を呼びます。「今日はキレイな空だなあ」「キレイな夕日だなあ」と日常の小さなことにも感動できる心を育てたい私たちは思っています。感性豊かな子どもが大人になってまちづくりに関わってくれば、素晴らしいまちになると思います。子どものころおやこ劇場に入っていたときに舞台を見て役者になった子、舞台の技術スタッフになった子もいます。舞台にふれる



ことで自分の夢も広げることになるのでは、と思います。

また、子育て真最中の人にぜひ、入っていただきたいです。子育てをしていると、どうしても世界が小さくなりがちです。1人ではできないことも何人か集まればできたりします。なかなか時間を作れないかもしれませんが、自分のやりたいことをできる場を作りたいです。

ワークスペースを使ってどのような活動をされていますか?
スタッフミーティングや、資料作り、発送作業などを行っています。

実際にワークスペースを使われてどうですか?
とても助かっています。エクラの所在地が市の中心地ということもあり、スタッフも集まりやすいようです。また、印刷機をはじめとする機器や備品、消耗品を収納するロッカーを利用できることもうれしく、スタッフでよかったなあと話しています。

支援センターの団体会員になった理由を教えてください。

支援センターの「新しい地域づくりを目指す仲間として一緒に船にのり、市民活動の輪を広げよう」という目的と、おやこ劇場の趣旨とが合致していると考えからです。

また、支援センターがエクラの指定管理者として管理運営をされるので、会員さんもエクラなら来やすいのでは...と考えました。

今後の活動についてPRしてください。

現在、会員数44名ですが、以前は600名程の方が会員として在籍されていました。少子化の問題もあり、厳しい状態ではありますが、でも、前の会員さんに会うと、子どももいい影響を受けたし、楽しかった、と話していただけます。当時、子どもだった人が親になって会員になってくれている人もいます。地域でのつながりも少なくなってきた今、おやこ劇場での多彩な活動や、様々な人との交流を通じ、社会体験の機会を広げていって欲しいと思います。地元使いやすいホールができたので、おやこ劇場でエクラホールを利用できるくらい活動を広げていきたいです。そのためにも、わたしたちスタッフが初心に戻ってがんばっていきたくと思っています。

小野おやこ劇場25周年でもある今年の10月には、支援センターの自主事業であるミュージカルの開催に協力します。これが、おやこ劇場の活動をもう一度活性化させる再出発のきっかけづくりになればと思っています



例会報告

9月 → 12月

Regular meeting report

9月 → 11月 例会



●10月例会



●11月例会

9月例会(9月9日)、10月例会(10月14日)、11月例会(11月11日)は、3回のシリーズで、評議委員である森田啓之さんによる「こんな「まち」にしたい! -互いの描く理想像をグループワークで確認-」と題して行われました。

9月例会では、各自、自分の人生で「影響を受けた」「転機」となった人、物、事柄を書いて、それをもとに、各グループでディスカッションをしました。

10月例会では、自分の名前を使っての自己紹介をし、ユーモア溢れる自己紹介が繰り広げられました。

どんな「まち」にしたいか?理想の「まち」にするにはどうすればいいのか?提示された問題の解決策をグループで考えました。「自然が残るまち」「生きがいのあるまち」「移動遊園地がくるまち」など、9月の例会で出された意見をもとにグループディスカッションを行い、各グループから代表者が発表しました。11月例会は「子どもが生き生きと生活できるまち」をつくるにはどんな条件が必要か?というテーマでグループディスカッションを行いました。

①文化の香り ②スポーツの熱さ ③親の考え(保護者) ④地域コミュニティ ⑤気軽に遊べる場所(身近) ⑥豊かな自然 ⑦楽しい学校 この7つの項目を参加者各人が、子どもが生き生きと生活するために重要な順に並べ、自分がなぜ、この順番にしたかを、グループ内で発表して、各グループごとにまとめました。どのグループも白熱した議論が展開されました。

ひとそれぞれ様々な考え、思いがあることは当然ですが、こんな考え方もあるのか、そう考えることもできるのか、といったことがたくさんあった例会でした。そして、参加された皆さんが、普段から真剣に「まち」のことについて考えていると分かって、うれしくなった例会でもありました。

参加された方からは、「最初は難しい内容だなあ、と思ったけれど実際参加してみるとなかなか楽しかった。」「普段あまり関わりあいがいい人とグループディスカッションをし、自分とまったく違う考えを聞くことができて新鮮だった。」など、「よかった」というご意見をたくさんいただきました。

12月 例会



12月23日(金)16時からエクラホワイエにおいて12月例会を開催いたしました。

神戸ローテ・ローゼのオーナー松田耕治さんによる、「気軽にワインを楽しむために」というテーマのワイン講座をお聴きし、その後は、利きワインをしてワインを当てるクイズなど楽しいひと時をすごしました。松田さんの非常に楽しいお話に笑いの絶えない例会となりました。

また、同日に開催された「2005エクラクリスマスコンサート」の出演者である春木浩子さん(ハープ)と、西本淳さん(サクソフォン)もとび入り参加してくださいました。

事務局より

エクラに引っ越してきてから1年がたちました。この1年間、じつに多くの方が支援センターに関わってくださいました。様々なことが始まり、状況に応じて形を変えてきました。「変わったこと」の一つとして、理事評議員会などで何度も話し合われてきた「例会」ですが、今年から各委員会で担当していただくことになりました。これまでとは、また違ったかたちの例会になることでしょうか。

他団体とのコラボレーションによる参画と協働事業を始め、各委員会でも市民を巻き込んだ活動が増えてきています。「エクラ」がクローズアップされてきましたが、中間支援組織である「ksks Arche(クスクスアルシェ)」も少しずつ認知されてきているのではないかと思います。

ここでお知らせです。広報委員会と事務局で「Arche日誌」という名前でブログを立ち上げ、毎日書き込みを行っています。支援センターのホームページに/ナーがありますので、そちらから入ってみてください!!アドレスは、<http://blog.livedoor.jp/ksksarche/>です。(ブログは携帯からもご覧いただけます。)

また、平成18年度の支援センター総会を5月20日(土)10時30分から予定しています。正会員のみなさんご参加をよろしくお願いいたします。